

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2021年10月

No. 78

～ 1冊の本が人生を変える～

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association (TAAA)



2021年9月の報告と予定

- 2021年3月～2021年9月 国内では、英語の本・算数セット・サッカーボールを収集、コロナ禍のため、少人数で分類・梱包作業をおこなう。
南アでは、状況を見ながら本の配布や一部の貸し出し、司書教師対象のIT研修会などを行う
- 3月～9月 コロナ禍のため、国内の梱包作業を数回中止、または小規模に行う
- 9月 本10644冊 ポール256個 算数セット354個が、南アに到着

目次	● 暴動とコロナ禍の中で (平林薫).....	2
	● 生徒たちのエッセイ	4
	● 学校からのおたより	7
	● 惜別 稲泉先生 (久我祐子) 紹介 北爪さん (野田千香子)	9
	● 2020年度会計報告.....	10
	● 活動日誌.....	11
	● 寄付金や本などを下さった方々.....	12



ピューラー小学校で折り紙の指導をする平林薫

～暴動とコロナ禍の中で～

南アフリカ事務所 平林 薫

日本からのコンテナ到着！

4月に日本から発送された物資は、6月18日に南ア事務所に配送され、地元の若者たちに手伝ってもらって無事倉庫に搬入した。輸送コンテナが警察の抜き打ち検査対象となり、時間とコストがかかってしまったことは残念だった。算数セットが多かったので、7月の冬期休暇中にモンドリと一つ一つ箱を開けてパーツを揃える作業を行った。特にブロックは面の色が黄色と白のものや青とピンクのものがあるので、学校ごとに同じ組み合わせのものを配布するようにしている。以前、ムタルメ地域の小学校で算数セットを使った指導をしたところ、生徒の算数への興味と理解が深まったことから、南アにおいても算数セットは大変効果的な教材である



ことが実証された。読書や英語習得と同様、算数も低学年の早い時期に生徒が興味を持ち、楽しみながら学習できる環境が必要である。算数セットの中に、“南アの子どもたちに使ってもらえたら嬉しいです”などのメッセージが入っていることがある。本一冊、算数セット一箱が南アの子どもたちの教育に大きな力になっていることを、この場を借りて支援者の皆さまに改めて感謝の気持ちをお伝えしたい。

暴動について

7月中旬に勃発したクワズルーナタール州及びハウテン州一部での暴動は、ズマ前大統領が汚職調査委員会への召喚に異議を唱え、出席を怠ったとして1年3か月の禁固刑を言い渡されたことに対し、彼の支持者たちが不満を表明、大規模なデモとストライキの実施を呼びかけたことが発端となった。これまでに対象地域内でもインフラ整備の遅れや自治区職員の怠慢などに対して地元住民による抗議行動は見られたが、今回は州内全土に及び、またとても過激なものとなった。近くのスーパーまで暴徒が来ており、2～3日は外出を控えた程だった。混乱は一週間程経つとまるで何事もなかったかのように落ち着き、通常の生活に戻った。現在でも営業再開のめどがつかないケースも見られる。今振り返ると、あの混乱は何だったのだろうか、あのような暴動は回避できなかったのだろうか、と不思議な気持ちだ。暴動や略奪の様子をテレビで見たり、実際間近に目にした子どもたちのショックは大きかったことだろう。子どもたちに与える悪影響は甚大だ。子どもたちが成長して、もし同じことをしても、彼らのことを責められるだろうか。現在、南ア各政党のリーダーたちは11月1日の地方選挙に向けて忙しくしているところだが、7月の混乱の背景に何らかの政治が関わっていたのだとしたら、選挙前後に大きな問題が起きないことを願っている。

教師アシスタント制度

今年度初めに対象校図書委員会の新メンバーが活動を開始した時、教育省が教師アシスタント制度を導入したところだった。様々な資格を持っているが失業中の若者に雇用機会を与え、学校内の人手不足も解消するという画期的な取り組みである。各校に1～2名が配備され、その多くは図書室をベースしたことから、1学期は毎日いつでも図書室が利用できるようになり、活動がスムーズに進んだ。この制度は期限があると聞いていたので、アシスタントに頼り過ぎず、司書教師と図書委員会メンバーが自立した活動を行うよう伝えていた。4月末に制度が終了した後は図書室に常駐する人材がいなくなったことから、活動が停滞してしまった学校も見られた。現時点でも、多くの学校の図書室は休憩時間のみ開室している状態である。教師アシスタント制度が有効で好評であったことから、教育省は来年度の予算申請をしているというが、再導入するのであれば、せめて1年間は継続して欲しい。

退学が増加

ユニセフは7月、新型コロナウイルス禍の南アの学校への影響として、昨年3月から16か月の間に75%~100%の授業の遅れが見られ、この間に40万~50万人の生徒が退学したと発表した。8月末の基礎教育省の会見では、今年度小学校に就学するはずの子ども25000人が通学しておらず、7~14歳の生徒も本来より10000人少ない登録となったと報告している。現時点での退学者の多くは高校生と考えられるが、今後、小学生でも授業について行けなかったり、家にいることに慣れて学校に行くのが面倒になってしまったり、という生徒が増加することが予想される。

新型コロナウイルス禍でのロックダウンやローテーション登校による授業時間のロスは、学習した内容を忘れてやり直す時間も含めると倍になる。

小学校低学年生徒が中高生になる頃には、基礎教育が十分に受けられなかったツケが回ってくるだろう、と教育専門家が指摘する。遠隔地域や黒人居住区の学校と、比較的豊かな都市部の学校の教育格差が大きくなっており、ロックダウン中のオンライン授業へのアクセスの有無がそれを象徴する。現在、私たちの対象校のような遠隔地域の学校では、教科の指導内容の変更を余儀なくされている。短い時間ですべてをカバーすることができないため、特に重要と思われる一部分を抜粋して授業を行っているのだ。

現在も続くローテーション登校により教師は非常に忙しく、学校全体でのイベントやコンペティションも行えない状況が続いている。また、新型コロナウイルス感染者の急増のため6月末の2学期終了時期が早まり、7月末の3学期開始後も前期に行うはずだった試験が続くなど、十分に活動の時間が取れないことに焦りと苛立ちを覚える。このような時こそ、図書室を有効に利用して自習や読書を楽しんでもらいたいと思うのだが、高校では授業とテスト以外のことを考える余裕がなく、司書教師も図書委員会生徒やクラスの生徒たちに十分なサポートやアドバイスができていないのが現状である。対象高校の生徒に“ローテーション登校で自宅待機の日にゆっくり本でも読んだら”と言うと、“プリントの宿題がたくさんあって忙しいんです”と言われてしまった。これでは質の高い教育からますます遠ざかってしまっているのではないだろうか。

図書室の利用

小学校でも同様だが、少し緩やかで、コンテナ図書室は着実に利用されている。教室サイズの図書室は開室時に司書教師が常にモニタリングする必要があるが、コンテナ図書室は図書委員会生徒で対応できることや、コンテナ設置場所が管理・アクセスしやすいことなどが理由と考えられる。このような状況の中、学校での図書活動のリーダーとして積極的に活動に参加し、できる限りの努力をしながら責任を持って図書活動を継続・促進している委員会生徒たちと深く交流できることは大変喜ばしい。TAAAの活動から、学校の勉強だけでは足りない豊かなものを補い学んでくれているのではないかと思う。

エッセイ「自分自身について」

今年度から始まったIT指導は、これまで順調に進んでいる。現代の若者はパソコンへの興味が大きく、技術の習得が早い。基本的知識のテスト後、技能の実践として、生徒に“自分自身について”のエッセイを書き、タイプ、印刷して提出するという課題を出した。これは書類作成の手順の習得や自分自身について表現する文章力の確認と共に、生徒が将来について考える機会になると考えた。図書委員会メンバーの多くは優秀な生徒のようで、周囲から期待されているのか、“将来は医者になりたい”と言う生徒が多かった。環境内では職業の選択肢が多くないため、小学生には“将来何になりたいか”の想像がつかないかもしれない。高校生になると自分の興味や能力を判断し、それぞれなりたい職業を書いている。“医者”“弁護士”“電気技術者”“会計士”、天文学者や考古学者を目指す生徒もいる。彼らが今思い描く夢をかなえることは、他の道に進んでも、精一杯仕事をして幸せな毎日を送れるよう願っている。縁あって出会った彼らと今後も何らかの形でつながっていきたいと思っている。

今回、対象校12校の図書委員会生徒約100名のうち、6校から11名の生徒のエッセイをご紹介します。それぞれしっかりと自分自身について考え、真剣に取り組んでくれた。



フランクリン小のコンテナ図書室とグンビ校長

生徒たちのエッセイ

対象校12校の図書委員会生徒約100名のうち、6校から8名の生徒のエッセイをご紹介します。

自分らしく

• こんにちは。僕の名前はスポネロ・ソコボです。家族とポートシェプストンのオシャベニ地区に住んでいます。15歳でドゥドゥズィレ中高校の10年生です。僕は親切でフレンドリーな性格だと思います。また、物事に熱中し、一生懸命取り組みます。そしていつも好奇心旺盛です。僕は短気を起こさず、常に落ち着いているよう心がけています。

僕のこれまでの人生の中で、大きな要因となったのは小学生の時です。幼かったこともあり、様々な制限があって、友人を作ったり、学校で発表をしたりなど、十分に自分自身を表現できませんでした。当時は自尊心が低かったと思います。成長するにつれ、自分自身を向上させるよう努力しました。当時のような自分もまだ残ってはいますが、現在はとても良い友人に恵まれ、僕の力になってくれています。

僕は映画やアニメを見るのが好きで、時間があればビデオゲームや読書をしています。他人のうわさ話や人を不快にさせるようなことは嫌いです。僕の名前スポネロは英語では Example（模範）で、母からは下のいとこたちの良い見本になりなさい、と言われていました。これは私の人生の目標に向けて努力するための大きなモチベーションとなっています。

僕は自分の周りの世界や科学に興味があり、学校では自然科学を選択しています。天文学にも興味があり、将来、天文学者が天体物理学者になりたいです。大人になったら家族を大切に、友人と充実した時間を過ごしたいです。何事にも決意を持ち熱心に取り組むことで、素晴らしい人生を送ることができると信じています。



私らしくいること。だってみんな#SELF LOVE (自分自身への愛)を持っているでしょ。

• こんにちは！

もしあなたが愛すべき心の持ち主に関心がないのなら、ントンベンシェのことは分からないわよ。私はントンベンシェ・マシヤ。16歳のぽっちゃりとした女の子。ドゥドゥズィレ中高校の10年生。商業専攻です。

私自身については……知的でエネルギッシュ、情熱的で野心を持ち、勇気があるけれどちょっと恥ずかしがり屋、かな。



私は、地元出身のとても魅力的で聡明な女優、ノンザモ・ンバタに影響を受けているの。(アメリカ映画で) 大役を演じた彼女の姿に、自信を持って夢を実現させることを学んだわ。私の目標は世界一の会計士になること。旅もしたい。

人とのコミュニケーションは上手く取れる方だけど、人前で話すのはちょっと苦手。

そして最後になったけど、読書が大好き。#SELF LOVE だって私には価値があるんだもの。

自分自身について

• 僕の名前はマネリシ・ンゾベ、15歳でマンガズーカ高校の8年生です。僕は図書委員会メンバーで、高校に入って初めて図書活動に携わりました。僕はダンスが大好きです。地域に若い男性のダンスグループがあり、メンバーとして活躍しています。ダンスはストレスを解消し、気持ちを落ち着けてくれます。僕は友人たちのことが大好きで、とても親しくしています。僕はルックスがいい方だと思います。将来はビジネス界で活躍したいです。図書委員会メンバーは皆で力を合わせて活動しており、このような機会をもらったことにとっても感謝しています。



MY LIFE (私の生活)

* 4名とも同タイトル/写真左から

• 私の名前はスネシャンシャ・トヤナ、エムセ二地区に父と叔母といとこと住んでいます。私はエムセ二小学校の5年生で11歳です。私の父はドライバーで、子供たちの送迎をしています。叔母のピンキーはエマジャリンディーニで働いていて、もう1人の叔母のクングは、ゴールドングローで働き、もう1人は美容師です。毎日、朝起きて、身支度をして、学校に行きます。学校から帰るとまず宿題をしてから遊びに行きます。私はフルーツや野菜など健康的な食べ物が好きです。



• 私はアヤンダ・ントロ、ポートシェプストンのドゥエシューラ地域に住んでいます。エムセ二小学校の6年生で12歳です。私は母と父と弟のシセケロと住んでいます。将来、私は教師になりたいです。なぜ

なら多くの子どもたちが成長する時に情報が必要だからです。私は立派な教師になりたいです。

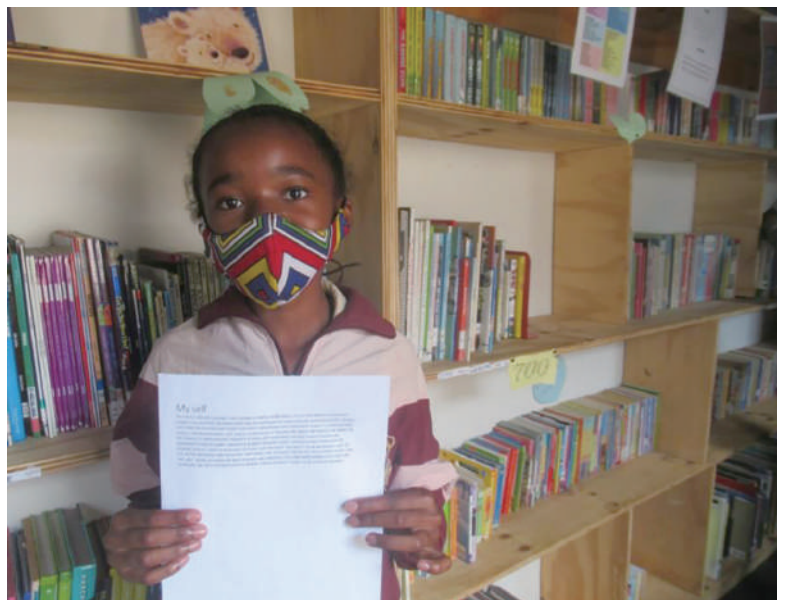
• 僕の名前はンコビレ・ングワベです。ドゥエシューラ地域のマトトに住んでいます。エムセ二小学校7年生で13歳です。僕の生活はとても厳しく、僕自身や家族を苦しめています。毎日大変ですが、学校では勉強に集中して、いい成績を取っています。学校はとても好きです。僕は自分の地域や家庭を良い方向に変えたいです。教会に行ってお祈りをしていますが、なかなか変わらないので辛いです。でも僕は常に信念と希望を持っています。僕の祖父が肺結核で亡くなり、生活が厳しくなりました。僕は自分が落伍者ではないかと考えるようになりました。他の生徒たちのように毎日楽しく過ごすことができなくなりました。友人はおらず、誰も僕の生活が厳しいことなど尋ねてもくれないし、気に留めてもくれません。僕の父は失業中で、姉は2019年に高校を卒業したけれど職に就けていません。母は一生懸命働いて家庭を支えています。母に感謝し、母の姿に自立して生きて行くことを学びました。僕は将来医者になりたいです。

• 僕の名前はルヤンダ・マプムロ、5年生でエムセ二地区に住んでいます。僕は将来医者になりたいです。なぜなら人々を助けたいからです。私の担任はカイソ先生です。僕の母はダーバンに住んでいて、僕はエムセ二に住んでいます。

私自身について

• 私の名前はスクリレ・ルシャバです。6年生で12歳、オシャベ二地区に住んでいます。私は祖母と兄と暮らしています。母は亡くなりましたが、父は健在で、いつも学校の休暇中に会いに行きます。

私のクラス担任はマビカ先生です。好きな科目は英語とズールー語です。何故ズールー語が好きかというと、私のルーツを教えてくれるからです。私の学校はインバレンチャネ小学校です。好きなサッカーチームはカイザーチーフス、好きな食べ物はサンプ（メイズの粒状のもの）です。私はちゃらちゃらしたタイプではありません。他の子をいじめたり喧嘩したりが嫌いです。私は自分のありのままの姿が好きです。週末は朝ジョギングをして、制服の洗濯をします。読書が好きで、クラスではいつも10位以内の成績です。私は末っ子です。親友は双子のスノティレとスノタンド・チェレです。私たちは一生の親友です。学校を卒業したらソーシャルワーカーになりたいです。



学校からのおたより

甲南大学サッカー部

中村 豊



活動の経緯

甲南大学体育会サッカー部は地域・社会貢献活動の一環として2019年度より発展途上国の子どもたちへのサッカー用具寄付活動を行っております。この活動は世界中の多くの子どもたちがサッカーを好きになり、より良い環境でプレーできる子どもたちが一人でも増えればという思いで取り組み始めました。第1弾としまして一昨年はフィリピンの子どもたちへ、サッカーウェアやシューズなど約500点ものサッカー用具を寄付致しました。そして昨年は第2弾としてサッカーボール20球を一昨年とは違う国・地域に寄付することを計画し、協力して頂ける団体を探していたところ TAAA の活動を知り、連絡をさせて頂きました。

感想

南アフリカの Beulah 小学校の子どもたちが、私たちの寄付したサッカーボールを手に取り喜んでる写真を拝見し、微力ながらも役に立つことができ非常に嬉しく思うのと同時に、この笑顔を見るために私たちは活動しているのだなと感じました。コロナ禍が落ち着けばぜひ私たちの送ったサッカーボールを使ってサッカーを楽しんで頂きたいと思っています。南アフリカの地方では、コロナ禍で経済的に厳しい中、退学・休学する生徒も増えているとお聞きしました。発展途上国の子どもたちが抱えている様々な問題を解決できるほどの力は私たちにはありませんが、私たちの出来ることを考え実行に移していくことで、地域・社会に貢献していきたいと改めて強く思いました。

最後に

今回の活動を通して、部員1人1人が地域・社会に貢献する為に何が出来るのか、なぜ貢献していかなければならないのか再確認することが出来ました。そして、自分たちの出来ることを考え、案を出すなど実行に移していく部員が増え地域・社会貢献活動に対する意識が変わったと実感しております。

コロナ禍による影響で、例年よりも大変なことが多い中ご協力頂きありがとうございました。活動が制限されるなど、思うように行動できない状況ではありますが、私たちが地域・社会の為に出来ることを模索し、世の中をより良いものにしていけるよう行動していきます。

貧困で勉強ができない南アフリカの子どもたちに贈り物を！ ～私たちにできること～

横浜女学院高等学校 山本 麻友香

プロジェクトの紹介

高校生4人が「南アフリカの子どもたちに笑顔届けたい」という思いから実現したプロジェクトです。南アフリカの子どもたちが笑顔になれるような贈り物をすることを目標にし、クラウドファンディングを立ち上げました。2021年6月11日に募集を開始し、60万円の資金を集めることができました。これらの資金をモノに変え、南アフリカの子どもたちに届けていくために今も動いています。

この活動を始めた経緯

このプロジェクトを計画した4人が在籍している横浜女学院ではESDという活動を行っています。ESDとはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。世界で起こっている問題を自らの問題として捉え、将来も豊かな社会が形成されるためには今の自分に何が出来るのかを考えることで、問題を解決するための考えや行動に変化をもたらし、持続可能な社会を目指して行うための活動のことを言います。私たち4人は「生命」をテーマにして活動を進めてきました。この活動を進めていく中で、世の中には様々な支援の仕方があることに気が付きました。その1つがクラウドファンディングです。



では、どこに支援をするのか。調べていく中で南アフリカの子どもたちの現状について知りました。調べていけばいくほど「私たちに出来ることってないのか」「助けたい」という気持ちが増していきました。しかし、思っているだけでは何の解決にもなりません。そこで、南アフリカに詳しい方にコンタクトを自らとり、その中で出会ったのがTAAAの方々です。私たちは多くの方々の協力を得て南アフリカの現状について伺い、南アフリカの子どもたちが今必要なものを探しました。「南アフリカの子どもたちの中にはペンを買えない子もいる」という現状を知ったとき、「ペンを送ろう」そのように思いました。2021年6月11日に募集を開始することが出来ました。

ここまでの感想

私たちはこの活動始める前から南アフリカについて何か知っていたわけではなく、完全にゼロからのスタートでした。そもそも何から手を付ければいいのか。誰にコンタクトをとればいいのか。手探りの状態でした。そんな時でも自分たちでアクションを起こさない限りは始まらないことを知っていました。もともと「やってみる？」そんな軽いノリで始まったプロジェクトでした。しかし、多くの方が私たちのプロジェクトに賛同してくれる度に「成功させたい!」「南アフリカの子どもたちに笑顔になって欲しい」そのように強く思いました。最初にコンタクトをとった方からメールが返ってきたときは嘘なのではないかと思うほどに驚いたことを覚えています。そして、その方にTAAAの方をご紹介いただきました。まだその時はほとんど基盤がない状態で、南アフリカの情報が増えていくだけでその受け皿がまだ整っていませんでした。毎日、形にするためにはどうすればいいのか沢山悩みました。ある日、「南アフリカの子どもたちはペンを買えない子もいるの。だから、勉強するときは貸し借りしたりしている。それに、家にペンがないから宿題できないの。」私はこの言葉に衝撃を受けました。ペンが手元にあることなんて私たちににとっては当たり前だったからです。そんな当たり前が地球の反対側では当たり前ではないことを知りました。その時に何とも言えない気持ちになり、このプロジェクトを絶対成功させようと思いました。

南アフリカの子どもたちへメッセージ

私たちにこのような機会を与えてくれてありがとう。満身に学習ができない環境に生まれたことを不幸に思わないでください。上から目線かもしれないけど、私たちはみんなの幸せを願っています。ペン1本じゃ未来が変わることなんてないかもしれない。でも、みんなに少しの希望と笑顔が届いたら嬉しいです。みんなにいつか直接会ってみたいです。そんな世の中がいつか来ることを願っています。

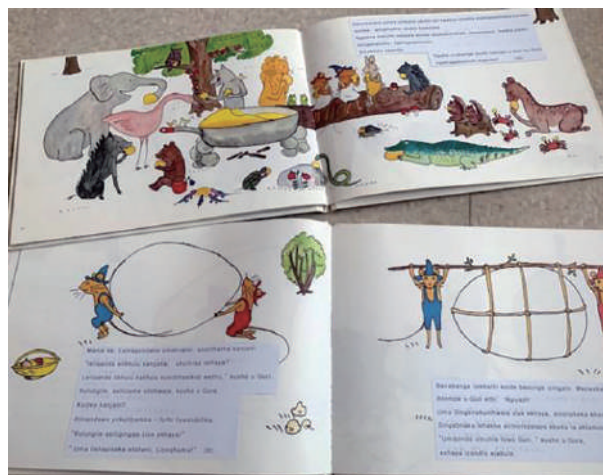
中央大学杉並高校の先生より

本校2学年ではホームルーム活動の中でプロジェクトワークと称して自分の興味関心のある活動を選択してより深く関わっていく活動をしています。今回お世話になるのは「ボランティアプロジェクト」の生徒30名ほどです。1学期はホスピタルアート活動（病院や施設に入院されている方へ季節を感じる折り紙などを贈る活動）を行いました。参加している生徒は今後、大学生になっても人に寄りそう活動をしたいと考えてくれている生徒たちです。

- ①在校生の家庭から「ぐりとぐら」「そらいろのたね」を寄付して頂き、翻訳ラベルを貼る活動
 - ②プロジェクト生の自宅より数冊の絵本を寄付してもらい、英訳ラベルを自作し、貼る活動
- この2つを展開していきたいと計画しています。



表紙とラベル



これに伴い「ぐりとぐら」のズールー語翻訳ラベルをまず1セット頂戴できれば嬉しいです。（データを添付して頂き、こちらでシール印刷することも可能です）また、英訳する絵本ですが対象となる年齢をお聞かせ頂けたら嬉しいです。また、書き損じハガキなども回収するつもりでいます。

生徒も担当教員も初めての挑戦ですので、かえってご迷惑をおかけしないように注意して行いたいと考えています。ラベルの貼り方など、もし注意すべき点があれば、是非教えてください。よろしくお願いいたします。

ズールー語のラベルを貼ったページ

フランクランド小学校 校長先生からの感謝のお手紙

2021年8月28日

フランクランド小学校は、オーシャン ネットワーク イクスプレス ジャパン株式会社さまによる日本から南アフリカへの本の輸送という雅量あるご支援に深く感謝しております。

このご支援は、フランクランド小学校の教職員と生徒たちにとって、特に予想外な事態にあれこれ見舞われたこの学年度中には、大変ありがたいことでした。

私たちの学校を大きく助けてくださったみなさまのご支援に対して、心からの感謝と称賛の気持ちを表したいと思います。

E.S.Gumbi 校長 訳 大友深雪



惜別

稲泉先生を偲んで

JICA 草の根技術協力事業「有機農業塾を拠点とする農村作り（実施期間2016年～2019年）」でTAAAの農業指導アドバイザーを務めてくださった東京農業大学教授稲泉博巳先生が、2021年9月4日に永眠されました。

事業期間中は東京農業大学の生徒さん2人を現地に派遣していただき、事業終了後もずっと農業塾周辺の動きを見守ってくださっていました。また、2014年にはTAAA学校菜園プロジェクト対象校を17校を訪問していただき、菜園活動を楽しみながら頑張る生徒たち一人ひとりにアドバイスやメッセージをプレゼントしてくださっていました。

6月に行ったZOOM開催でのTAAA総会にも参加していただき、農業塾卒業生たちのその後の活躍には「うれしいな」と目を細めてくださっていました。総会后、先生からTAAA南ア事務所に届いたメッセージの一文です。

「是非周りの人たち、特に畑が好きで、あまり活発ではないけれど一生懸命取り組む人など、合理的生産第一主義では取りこぼしてしまいそうな人たちに目配りをしつつ、ご自身も楽しんで息長く続けられること、そしてたまに現場のお話を伺うことを楽しみにしています。」

ご冥福をお祈りいたします。

TAAA代表 久我祐子



南アの菜園で指導される稲泉先生（2014年）

ご紹介

北爪 健一さん

皆様が寄贈して下さる英語の本や算数セットをいったん熊谷市の北爪さんのおうちで受け取り、保管し、数か月に一度、トラックでさいたま市の作業場へ運んでくださいます。

北爪さんはTAAAが設立した30年近く前から、活動して来られました。

野田千香子



2020年度(令和2年度)活動計画書 特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

単位:円

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	135,000	
賛助会員受取会費	20,000	155,000
2 受取寄附金		
受取寄附金	807,860	807,860
3 受取助成金等		
受取公共助成金	9,323,802	
受取民間助成金	1,199,000	10,522,802
4 その他収益		
受取利息	68	
雑収入(1)	2,003,300	2,003,368
経常収益計(A)		13,489,030
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	2,596,935	
臨時雇賃金	40,241	
法定福利費	0	
人件費計	2,637,176	
(2) その他経費		
プロジェクト物資購入費	2,058,895	
研修費	8,807	
制作費	0	
プロジェクト物資輸送運搬諸経費	86,907	
旅費交通費	145,921	
車両諸経費	498,302	
燃料費	210,040	
視察訪問費	0	
専門家派遣費	0	
施設使用料	0	
会議費	17,593	
通信・運搬費	86,953	
印刷・製本費	49,038	
消耗品費	14,529	
水道光熱費	7,224	
地代家賃	337,299	
支払手数料	0	
保険料	0	
雑費	0	
その他経費計	3,521,508	
事業費計		6,158,684
2 管理費		
(1) 人件費		
臨時雇賃・講師代	0	
役員報酬	0	
人件費計	0	
(2) その他経費		
会議費	1,642	
旅費交通費	0	
車両諸経費	44,227	
燃料費	3,000	
通信運搬費	51,546	
印刷製本費	50,425	
消耗品費	1,095	
水道光熱費	0	
支払手数料	66,712	
保険料	93,012	
地代家賃	72,433	
事務所設備・修繕費	200,094	
業務委託費	120,000	
租税公課	2,498	
雑費	51,694	
その他経費計	758,378	
管理費計		758,378
経常費用計(B)		6,917,062
当期経常増減額(A-B)		6,571,968
III 経常外収益		
1 固定資産売却益		0
経常外収益計(C)		0
IV 経常外費用		
1 過年度損益修正損		0
2 為替差損		0
経常外費用計(D)		0
①当期正味財産増減額(A-B+C-D)		6,571,968
②前期繰越正味財産額		6,593,213
次期繰越正味財産額(①+②)		13,165,181

備考(1) 持続化給付金 2,000,000円含む

主な活動 (2021年3月16日～2021年9月15日)

【日本国】 TAAA 会員とボランティア

- 3月～9月 本の受け取りと保管 北爪健一
 3月下旬 会報送付のための住所ラベル準備 西村裕子
 3月～4月 会報76号の編集・校正 野田千香子 久我祐子
 3月～9月 ホームページの管理・更新など 渡恵美子 久我
 3月～4月 会報77号の発送準備と郵送 野田 高野千恵美
 3/18 梱包作業 久我 野田
 3/29 梱包作業 久我 大友深雪 高野 野田 西村
 3/30 梱包作業 久我 久我悠理
 3月末 355箱 南アへの送付集計表作成 西村 久我
 4月初旬 輸出手続き 久我
 4/13 サッカーボール搬入 森直之 なつみ
 4/16 出荷 本10644冊 ボール256個 算数セット354個
 久我 大友 野田 浅見克則
 4/27 日本教育 NGO ネットワーク 年次総会参加 久我
 5/8 TAAA 理事会
 5/13 総会資料準備 久我
 5/17 HP 更新 久我
 5/17 作業場へ搬入 北爪健一
 6/13 TAAA総会
 6/14 総会議事録まとめ報告 丸岡晶
 7/13 N 連中間報告書 作成・提出 久我
 7/14 本の種分け作業 大友深雪 久我
 7/25 TAAAZOOM ミーティング
 8/24 N 連事業変更報告書 作成・提出 久我
 9/2 プロジェクトマネージャーとの ZOOM 会議 久我
 平林
 9月初旬 会報78号準備 野田 住所ラベル準備 西村

【南アフリカ共和国】 平林薫と南アフリカのスタッフ

- 3/16～17 在南ア日本大使館提供で作成のビデオについて制作会社と準備、17日に Zoom でインタビュー撮影（平林・モンドリ・ザミサ学区長）
 3/18～19 対象校を巡回訪問、図書委員会生徒への IT トレーニング、図書活動研修。
 3/21 シェリーセンター書店で対象校配布用書籍購入。
 3/22 倉庫内の高校生用書籍分類・整理。
 3/24 ストライキのため学校訪問を中止し、会報原稿執筆等。
 3/25～26日 対象校を巡回訪問、IT トレーニング、図書活動研修、小学校に算数セット配布。
 3/29 対象校を巡回訪問、IT トレーニング。
 3/30 上記ビデオ制作について、撮影チームが Umalusi 小訪問、図書委員会生徒への IT トレーニング、図書室管理方法研修、生徒の音読等を撮影。
 3/31～4/1 対象校を巡回訪問、活動の進捗確認、図書委員会生徒に図書室管理方法研修、注文した本の引き取り。
 4/6～9 対象校を巡回訪問、活動の進捗確認、IT トレーニング、本の受け入れ登録作業と本棚への設置。
 4/12～16 対象校を巡回訪問、活動の進捗確認、IT トレーニング、司書教師とミーティング。
 4/19～22 対象校を巡回訪問、活動の進捗確認、IT トレーニング、本の受け入れ登録作業と本棚への設置。校長・司書教師とミーティング。
 4/23 1学期終了日のため、倉庫の本の分類・整理、事務処理等。
 5/3 2学期開始日。対象校以外で図書活動支援をしている Buhlebethu 高に本を配布、受け入れ登録作業手伝い。

- 5/4～7 対象校を巡回訪問、司書教師と今学期の計画等話し合い、書籍の配布と受け入れ登録作業、図書委員会生徒への研修、Frankland 小にサッカーボール寄贈。
 5/10～14 対象校を巡回訪問、IT トレーニング、書籍の配布と受け入れ登録作業、Umalusi 小にサッカーボール寄贈。
 5/17～21 対象校を巡回訪問、活動の進捗確認、本の受け入れ登録作業、IT トレーニング、対象校を Cophela 小から Frankland 小に変更。ELITS ンベレ氏と会議。
 5/24～28 対象校を巡回訪問、書籍の配布と受け入れ登録作業、IT 筆記テスト、Frankland 小に IT 資機材を届け、指導開始。
 5/31～6/4 対象校を巡回訪問、IT 筆記テストと実践課題について説明、中高校でブックレビューコンテスト開催。司書教師研修会案内配布。州環境省ザマ氏と会議。
 6/7～8 モンドリが対象校を巡回訪問、図書活動進捗確認。平林は司書教師研修会準備、講師と打合せ。
 6/9 オシャベニ・コミュニティーセンターで司書教師対象研修会開催。
 6/10～11 モンドリが対象校を巡回訪問、活動進捗確認。平林は倉庫にある日本関係の本を JICA に寄贈準備、対象校以外の学校長の本の引き取りに対応。
 6/14～15 モンドリが対象校を巡回訪問、活動進捗確認と IT 指導。平林は倉庫に残っていた書籍を ELITS に寄贈、船積み到着準備。
 6/17 モンドリが対象校を巡回訪問、活動進捗確認と IT 指導。平林は船積みに関して通関業者と配送についてやりとりと準備。
 6/18 オフィスにコンテナ到着、5名のスタッフで倉庫への搬入作業。
 6/21～25 対象校を巡回訪問、活動進捗確認と IT 指導。
 6/28～30 対象校を巡回訪問、活動進捗確認と IT 指導、数校から IT 実践課題受取り。
 7/1～25 冬期休暇。N 連中間報告書作成、会計・事務処理等。
 7/26～30 対象校を巡回訪問、図書室の状況確認、司書教師と話し合い、書籍の寄贈と受け入れ登録作業、Beulah 小にサッカーボール寄贈。
 8/2～6 対象校を巡回訪問、図書委員会生徒の図書室管理運営力確認、書籍の寄贈と受け入れ登録作業、Frankland 小で IT 筆記テスト、IT 実践課題受取り。
 8/10～13 対象校を巡回訪問、IT 筆記テスト追試、テストの振り返り、実践課題受取り、図書委員会生徒の図書室管理運営力確認。
 8/16～20 対象校を巡回訪問、IT 指導時間確認と変更、IT 実践課題振り返りと書類作成方法再指導。本の受け入れ登録作業。
 8/23～27 対象校を巡回訪問、IT 専門指導員によるトレーニング再開、実践課題振り返りとコメント、低学年への本の読み聞かせ。
 8/30～9/3 対象校を巡回訪問、IT 専門指導員によるトレーニング、本の貸出し・返却サポート、書籍購入、次年度の活動について協議。
 9/6～10 対象校を巡回訪問、IT 指導、本の貸出し・返却サポート、会報掲載用生徒のエッセイ選考、高校配布用書籍の仕分け。
 9/13～15 対象校を巡回訪問、IT 指導、高校配布用書籍の仕分け、購入した書籍の分類と配布。